



猫喘息って?

咳や喘鳴^{ぜんめい}などの呼吸器症状が現れる病気

気管支の粘膜が炎症を起こして腫れ、空気の通り道が狭くなることで、繰り返す咳や喘鳴などの呼吸器症状が起こる病気です。治療により症状が治まったあとも、急に発作が起きたり、少し経ってから症状がぶり返すケースも少なくありません。

主な原因

何らかの物質に対する急激なアレルギー反応として、気管支の炎症が起こることが多いと考えられています。

アレルギーになる物質はさまざまあり、タバコの煙・ハウスダスト・花粉、芳香剤をはじめとする化学物質など、室内にあるものがアレルギーになることも。また、気候や環境の変化、強いストレスや激しい運動が喘息を悪化させる要因になるとも言われています。喘息発作に先立って生じる、気管支の急な腫れや違和感から「落ち着かない不安そうなそぶり」や「呼吸数の増加」などの行動変化が見られることがありますので、少しでも気になる異変が見られたら発作の有無にかかわらず、速やかに主治医に相談しましょう。

検査

アレルギー検査によって猫喘息の原因となっている可能性が高いアレルゲンを、ある程度推測することは可能です。ただし、アレルギー検査だけで診断するのは難しいので、血液検査、X線検査なども組み合わせて総合的に判断する必要があります。

治療法

気管支の炎症の抑制と呼吸器症状の改善・緩和を目的に、抗炎症薬や気管支拡張剤などを使用した内科治療を行います。

個々の症例に応じて、注射薬・内服薬・吸入薬などを組み合わせるのが一般的。また、直接的な治療ではありませんが、発作時の呼吸困難など低酸素血症を改善する目的で、酸素吸入を行うことも。

主な症状

- 喘息発作(激しい咳、呼吸困難、開口呼吸など)
- 喘鳴(ヒューヒュー・ゼーゼーなどの呼吸音)
- 安静時に呼吸が異常に速い
- 運動をしたがらないなど...



予防方法は?

猫がどのアレルギー物質で喘息になるのかは、個体差もあるため事前に知ることはできません。しかしながら、喘息を起こす可能性のあるアレルゲンを知っておき、可能な限り猫の生活環境から排除しておくことで、喘息を起こすリスクを減らすことができます。

こまめな掃除や空気清浄機の活用といったアレルゲンを減らす工夫をしましょう。



雑誌「ねこのきもち」では、健康情報や困りごとなど飼い主さんの「知りたい!」を解決! ●こちらは、掲載した記事を再編集したものです。

アニコム損保ご契約者が
マイページから定期購読を申込みと
2号(2ヶ月分)無料!!